

佐賀県保育幼児教育センターだより

第2号 令和6年12月18日

佐賀県保育幼児教育センター（佐賀県こども未来課） ☎ 0952(25)7616

Fax0952(25)7339

hoikuyouchien@pref.saga.lg.jp

「学びの基盤」を踏まえた小学校生活科！

〔“10の姿”を踏まえた低学年指導～保育幼児教育アドバイザー研修レポート～〕

幼児は、遊びの楽しさを体いっぱいを感じながら、試行錯誤し、友だちと協同し、工夫し発見する楽しさを見いだしていきます。「遊び」は「学び」なのです。

そうした学びは、これが国語科これが算数科などと分けられるものではありません。しかし、遊びを積み重ねている子どもの姿に「小学校以降の学びの基盤」を確かにみることができます。

今回は、「“10の姿”（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）を踏まえた低学年指導」をテーマとして、県教育委員会学校教育課参事の槇俊二先生を講師に迎えて開催した研修会の様子を紹介します。

楽しく充実したお話の中に、幼児教育で育まれた「学びの基盤」を踏まえた小学校生活科の貴重な実践をお聞きすることができました。



小学校入学直後には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、児童の具体的な育ちの姿を踏まえ、一人一人が安心して自己を発揮できるよう、生活科を中心とした指導の工夫が行われます。

生活科の教科書では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が学習で発揮されている例が示されています。

➡2面に関連記事



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿“10の姿”

- (1) 健康な心と体
- (2) 自立心
- (3) 協同性
- (4) 道徳性・規範意識の芽生え
- (5) 社会生活との関わり
- (6) 思考力の芽生え
- (7) 自然との関わり・生命尊重
- (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- (9) 言葉による伝え合い
- (10) 豊かな感性と表現

“10の姿”は到達すべき目標ではありません。
園においては、項目別ではなく、全体的、総合的に捉えて小学校教育の先取りにならないようにしましょう。

こどもの発達や学びをつなぐ
ため、園と小学校で“10の姿”
を共有しましょう！

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の詳細は、「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の解説に掲載されています。



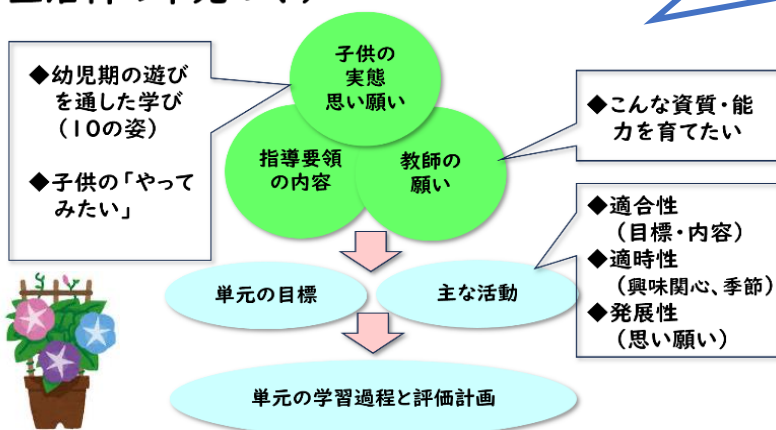
小学校児童の「思いや願い」や生活体験を把握する手掛かりとしての“10の姿”

生活科は、こどもの生活に根差したものであるため、こどもの「思いや願い」、これまでどのようなことを生活の中で体験してきたのかを把握することが最も重要です。

そのためには、幼児期の遊びを通してどのような「学びの芽」が育っているのか、こどもたちは、どんなことを「やってみたい」と思っているのかをとらえるのが大切です。

その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「10の姿」が手掛かりとなります。

生活科の単元づくり



令和6年7月26日開催「保育幼児教育アドバイザー研修」模先生作成資料より↑↓

生活科の子供観（質的な転換）

- ・ 子供はもともと「問う」存在である
- ・ 子供はもともと行動する存在である。
- ・ 熱中し、没頭して、切実な自分のめあてをもち、実現の見通しを立てる。
- ・ 子供は、子供なりの「論理」の世界をもっている
- ・ 子供には、理屈抜きの感情世界がある。



生活科は幼保小をつなぐ中心となる教科です。
生活科の誕生によって、これまでの指導観や「子供観」が大きく転換されました。

《研修に参加した先生方の声》

- 「生活科の子供観」をお聞きし、私たち幼児教育の現場で大切にしていることと共通していると知ることができ嬉しく感じました。
- 今後「遊びの中で育まれる力」を言語化できるようにしていきたいと思いました。
- 小学校生活科の教科書では、予想以上に幼児教育を意識した内容になっていたと思います。



《編集後記》今回の研修では、就学前教育、小学校教育で大切にしていることは同じということが感じられた貴重な時間でした。次号では、幼児教育施設、小学校、行政など様々な立場の先生方が一堂に会して開催された研修会の様子をレポートします。